

## 三浦市立南下浦小学校

研究テーマ：「自ら学ぶ子～自分で考える・話を聞く・学び合う～」

### 1 実践の目的

本校は、全校児童が118名の小規模校である。今年度、剣崎小学校と統合し児童数が増え、新しい学校としてスタートした。児童は「自分大好き 友だち大好き 学校大好き」の学校教育目標を意識しながら、元気に学校生活を送っている。豊かな自然の中で育った児童は明るく素直であるが「話を聞くことが苦手」「学習に対して受け身である」「基礎学力の定着が不十分」といった課題も見られる。本研究では、児童一人ひとりが受け身ではなく、自分から学びに向かう姿勢を育成することをめざし、研究テーマを「自ら学ぶ子～自分で考える・話を聞く・学び合う～」と設定した。研究テーマに近づくために今年度も「学びのプラン」を活用し、実践を行った。統合前の剣崎小学校も「学びのプラン」を研究していたので、それぞれの学校の実践方法も交流しながら、新しい南下浦小学校の研究を進めた。

### 2 実践の内容

#### (1) 校内研究の組織・取組

研究推進委員会を中心に、低学年部と高学年部の2つのグループに分かれて研究を進めた。それぞれのグループから一人代表授業を行い、講師を招き、授業改善に努めた。代表授業に関しては、教職員一人ひとりが「学びのプラン」を作成し、教職員全員で授業づくりを行った。また、代表授業者以外の教職員もグループごとに「学びのプラン」を活用した授業実践を行った。

#### (2) 校内研究の具体的取組

本年度は「自分で考える・話を聞く・学び合う」児童の育成を目指し、「学びのプラン」の実践と「あたたかい聴き方・話し方ステップ表」を主軸に取組を進めた。また、研修会も行い、日頃の授業づくりの見直しや改善につながった。

「学びのプラン」の実践では、授業のねらいや流れを児童の目線に立って記し、その単元で「何を」「どのように」学び、最終的に「何ができるようになるのか」を児童と共通確認し、授業を進めた。今年度は様々な教科で実践を行い、日頃の授業でも「学びのプラン」を積極的に取り入れた。

昨年度に引き続き、横浜国立大学名誉教授の高木展郎先生にご助言をいただきながら、教職員間で形式、提示の仕方を確認、検討していった。

「あたたかい聴き方・話し方ステップ表」の活用については、学年に合わせた具体的な聴き方・話し方・話し合い方が書かれた表を各クラスに掲示し、日々の授業で意識して取り組んだ。

今年度も先述した高木先生だけでなく、夏季・冬季研修会で、山梨大学の茅野政徳先生をお招きし、国語の「書く力」に関する授業づくりについてご講演いただいた。国語力はすべての学習の基礎になる。その点をご教授いただけたことは、教職員にとって大きな学びとなった。具体的な授業の進め方を、教職員全員で体感し、児童の目線に立って授業について考える良い機会となった。

### 3 実践の成果と課題

#### (1) 校内研究の組織・取組

学年部を分け、研究を進めたことで話し合いも活発になった。代表者授業については、一人ひとりが「学びのプラン」を考えたことで、自分事として研究に取り組むことができた。また、学年部と全体会で話し合いをすることで、より深い授業理解につながった。

代表者授業以外の授業に関しては、各グループに分かれ互いに授業実践を見合ったが、その後の振り返りができず、授業改善につなげることができなかった。代表者授業以外の授業実践の取り組み方については課題が残った。

#### (2) 校内研究の具体的取組

「学びのプラン」の実践では、何年か実践を続けていることで、教職員も児童も「学びのプラン」に慣れ、見通しをもって授業に取り組むことができた。また、様々な教科で実践したことにより、教科によって作りやすさや作りづらさがわかった。そして単元を見通した授業づくりに慣れ、日頃の授業に活用する教職員も増えた。しかし、「学びのプラン」を作り実践することは多くできたが、振り返りができず、授業改善まで繋げることができなかった。

「あたたかい聴き方・話し方ステップ表」の活用については、各クラスに掲示したことで日常から意識して取り組むことができた。例えば、学年によって児童の実態に合わせた話型や良い反応の例などを掲示し工夫して取り組むことができた。それぞれの取組について定期的に教職員で共有し、有効な取組については各クラスでいかすことができるようにしていきたい。

今年度も「学びのプラン」の基礎的な部分、

実践継続の過程を高木先生に見ていただき、本校児童の課題としても大きい「書く力の育成」の面を茅野先生にサポートしていただいた。研修会を夏季と冬季に増やしたことで、日頃の授業実践に役立つ話を具体的に聞くことができた。

### 4 今後の展開

#### (1) 校内研究の組織・取組

本年度同様、学年部を2つに分け、代表者授業を行い、教職員全員で授業づくりを行う取組を継続していきたい。また、代表者授業以外の授業研究については、ペアで取り組み、振り返りや報告をしっかりと行い、日々の授業改善につなげていきたい。

#### (2) 今後の研究の方向性

来年度は、「学びのプラン」「ベーシックタイム」「聴き方・話しかたステップ表」「学び合いの活動」の取組を中心にサブテーマを意識して研究を進めていきたい。「学びのプラン」については、作り方・使い方等慣れてきたので、これまで通りそれぞれの先生方で改善を加えながら作成し、作った「学びのプラン」を蓄積し、共有していく。

そして、授業に関してしっかりと振り返りを行い、授業の改善につなげていきたい。児童の実態から、基礎基本の学習も必要だと考え、毎朝行っている「ベーシックタイム」の取組について共有していきたい。「聴き方・話し方ステップ表」についても定期的に情報共有を行い、よりよい活用の方法を考えていきたい。来年度も研修会を定期的に行い、日々の授業が充実したものとなるよう、今年度同様、教職員全員で楽しく取り組むことができる研究にしていきたい。